

ケータイの科学 特集

The Scientific History of a "KE-TAI" (Japanese Mobile Phone)



- ◆ ケータイの昨今
- ◆ 進化し続けるケータイ
- ◆ ケータイ & IP with CDMA

Special Features : The Scientific History of a "KE-TAI" (Japanese Mobile Phone)

特集 ケータイの科学

編集にあたって

木幡 稔

千葉工業大学

最近数年間における携帯電話の利用台数は急激に増加しており、その利用台数は固定電話の数を上回ったといわれる。また端末自体の機能向上にも飛躍的な進歩がみられ、単なる通話のみの機能に加えて、電子メール、ニュースや天気予報などの情報配信、WWWブラウザなどの多才な機能が付加されるに及んでいる。アナログ方式を採っていた第1世代の携帯電話まではいわゆる電話としてのみの機能に限定されていた機能も、第2世代において完全なデジタル化が達成されたことにより、単なる電話としての機能のみならず、携帯端末としてより汎用性の高い機能を有するように進化したといえる。こうした携帯電話の進化に呼応して「ケータイ」というカタカナ用語が定着するようになり、携帯電話を脱皮した新しい情報機器として認められるようになりつつある。

本特集は、このように急速な進歩を続ける「ケータイ」のこれまでの概観し、さらに未来を展望することを目的として企画された。新世紀元年である本年はさらに多様なサービスとブロードバンド化を達成すべく第3世代の「ケータイ」が

始動する。これは、放送のデジタル化と並ぶイベントとして多くの期待を集めているが、はたしてその詳細はいかなるものであろうか。

本特集では、まず「ケータイ」の進歩の過程を振り返り、第2世代といわれる現在の「ケータイ」に至るまでの音声の伝送技術や電波の効率的利用方法などの技術的布石について解説する。さらに、現在展開されている、ケータイにおいて利用可能な各種のサービスについてキャリアの立場から具体的な事例をもとに解説し、併せて2001年5月より世界に先駆けて我が国においてサービスが開始される次世代携帯電話方式IMT-2000についても、異なる方式を支持する2つのキャリアの立場から解説する。ケータイの未来に関しては発展的でありながらも予見できない部分も大きい。本特集によって、読者の方々それぞれに、ケータイのこれまでを理解し、これからを展望していただければ幸いである。なお、タイトルの「ケータイの科学」は名著「ローソクの科学」からのアナロジーである。

(平成13年1月29日)

